

●科学雑誌の情報をどう生かして映像製作につなげるか

★生命科学での映像製作に関わる諸状況

<状況Ⅰ>

A・非常に幅の広い、しかも専門的に高度に細分化され、進歩発展の著しい生物医学分野

B・高度で新しい顕微鏡技術やイメージング技術の出現とそれを利用した研究成果

<状況Ⅱ>

C・研究者の動画作成のニーズの高まり、動画を自作できる技術や環境の普及

D・YouTubeをはじめとする、動画の作成や視聴への「敷居の低さ」の一般化

<状況Ⅲ>

E・新薬開発、新しい治療法の開発、医学生物学での健康改善・増強に向けてのブレイクスルーへの期待度

F・画期的開発やブレイクスルーとなる可能性のある研究について

①その内容の実証

→モデル図や概念図で示されている内容をリアルな動画で実証できるか

→リアルな動画をとおして、作用機序や効果の仮説を実証できるか

②その意味・意義を、背景を含めて効果的に伝えること

→がん、免疫、発生、遺伝……など関連する基本枠の概要と課題を示し、当該の研究の価値を明示する

<状況Ⅳ>

G・科学映画制作は衰退したが、それにNHKスペシャルなどの科学番組がそれに代わり得るわけではない

H・研究者、学会、研究支援機構、メディアが、生命科学分野の映像製作がどのような可能性を持つものかについて議論したことがない

I・映像制作会社が持つ映像制作のノウハウを用いて、今後何が可能になるのかわからないのかについて、諸々の状況をふまえて、改めて考えておく必要がある

そのようななかで、AとBの進展をおおまかに把握するなかで、EやFの可能性を見定めていきながら、

★ターゲットとなる研究者 ★映像制作専門集団 ★映像製作の支援者（企業や学会などを含む）

をうまくつなげながら、映像製作のプロジェクトを提案し、立ち上げていく

ことが求められるのではないかと。

その一つの手がかりとして、『nature ダイジェスト』を利用した、「活かせそうな」情報の精査があるように思われる。

●『nature ダイジェスト』の利点

- ・月刊で、ほどよい情報量（週刊誌 nature の主要記事論文 10 数本を要約解説）
- ・『日経サイエンス』に比べてもっと早く新しい情報が出る
- ・日本語で読める
- ・年間 8000 円しかかからない
- ・年間契約すれば、過去の PDF はすべて自由に読める（ダウンロードできる）
- ・専門的内容の質を落とさないで、的確に解説
- ・日本人研究者へのインタビュー記事もよく掲載される

●2022年1月号から2023年9月号までの21冊

うちメインテーマ（表紙）になったものは、生物医学系が15、と圧倒的。

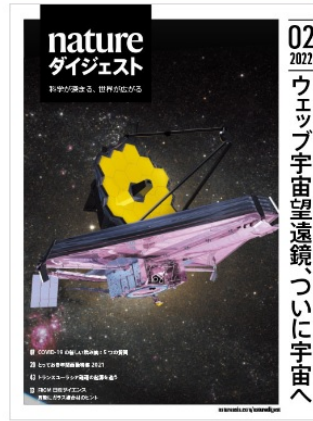
このうちの2022年の12冊の記事論文を検討【別ファイル】



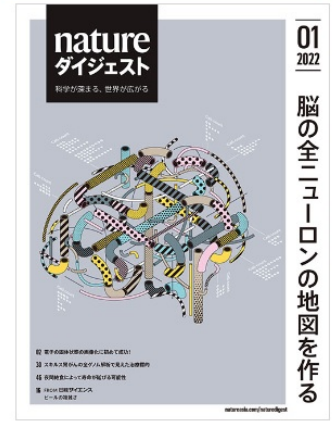
4月号



3月号



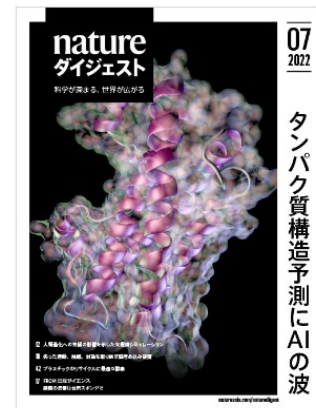
2月号



1月号



8月号



7月号



6月号



5月号



12月号



11月号



10月号



9月号



1月号



5月号



4月号



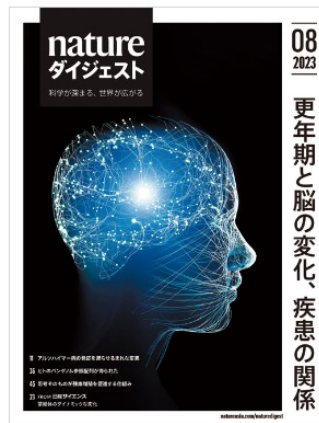
3月号



2月号



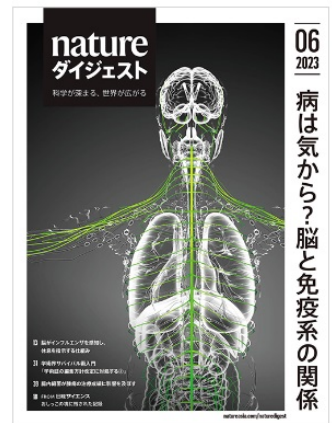
9月号



8月号



7月号



6月号